

タイトル

妊娠期の口腔保健を支援するデンタルペーストの有効性  
デンタルペースト使用前後における唾液生理機能の変化

昭和大学 歯学部 小児成育歯科学教室<sup>1)</sup> 医療法人 緑生会 あびこクリニック<sup>2)</sup>  
ピジョン株式会社 中央研究所<sup>3)</sup>  
助産院 ベビーヘルシー美蕾<sup>4)</sup>

藤岡 万里<sup>1) 2)</sup>、島野 侑子<sup>1)</sup>、丘 久恵<sup>1)</sup>、永井 真理子<sup>1)</sup>、井上 美津子<sup>1)</sup>  
阿部 晃子<sup>3)</sup>、板子 絵美<sup>3)</sup>、斉藤 哲<sup>3)</sup>  
瀬井 房子<sup>4)</sup>

【目的】

妊娠期はつわりや女性ホルモンの増加もあり口腔内にトラブルを抱える妊婦も多いが、口腔の健康管理として歯磨きは欠かせない。今回、妊婦を対象に試作品デンタルペーストの使用前後における唾液生理機能を測定し、妊娠期の口腔保健を支援するデンタルペーストの有効性について検討する。

【方法】

研究主旨を文書と口頭で説明し、同意が得られた妊娠 16 週以降の妊婦 30 名を対象とした。試作品デンタルペーストと歯ブラシを自宅で 2 週間使用、使用前後に安静唾液を採取、嗜好性や使用感に関する質問紙調査を実施した。採取した唾液より、唾液生理機能として分泌量 (ml)、沈渣割合 ( $(\text{沈渣量} / \text{分泌量}) \times 100$ )、pH (緩衝能) 等の分析を行った。

【結果と考察】

デンタルペースト使用前と比較し、使用後は、唾液分泌量が増加 ( $p < .05$ )、沈渣割合が減少 ( $p < .01$ )、pH はよりアルカリ性に傾く ( $p < .10$ ) 傾向が確認された。質問紙調査結果より、8 割以上が試作品の味・香りに満足しており、7 割以上が今後も使いたいと回答した。使用意向理由として「特に香りが良くとても使いやすかった」「泡立ちも市販のものより少ないので磨きやすい」等が挙げられた。以上より、妊娠期におけるデンタルペースト使用による口腔保健の支援、および試作品デンタルペーストが無理なく日々のオーラルケアの持続を可能とすることが確認された。